

2021年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ
代表者・役職名 氏名 代表理事 市原 信行

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

オールかながわで災害ボランティアの派遣拠点を整備

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

防災減災、地域支援活動を機に1999年8月、特非)として設立、会員数40名、2021年9月団体名称、活動内容、代表変更等、変更登記完了認可済み。現在は防災減災、災害支援、子ども食堂、フードパントリー、困窮世帯支援と共に地域支援を行い、子ども達の健全育成、防災教育などを取り入れながら、2021年8月大和市柳橋において活動拠点を設け活動を継続中、神奈川県相模原市に防災倉庫兼資機材使用研修場なども設けています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

県内、各行政や社協、県内災害支援可能団体やグループが一丸となり連携や支援技術の取得などへの取り組みをいち早く行わなければなりません、県内連携と技術力を持ち合わせたグループや団体が少ないと痛感しているため、連携を行える環境などの整備と技術取得が急務であると考えています、今プロジェクトでは、技術研修、活動拠点整備等をしっかり行い災害時に有効な活動ができる体制づくりを目指します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- 1 相模原市緑区名倉にて、災害被災地支援活動を行った現地の方々の好意により技術講習等が行える場所を確保することができたため、災害ボランティア初心者向けに資機材の名称及び使用方法や感染症、熱中症等に留意した安全衛生についての講習を行うとともに、運営管理者を対象とした重機・チェーンソー・エンジン工具や電動工具等の研修会(講習)を行いました。
相模原市藤野名倉倉庫において安全衛生研修、重機研修、チェーンソー研修、エンジン機械講習等を行いました。
- 2 災害発生当初からボランティアを一刻も早く現場へ派遣するため、土嚢袋やブルーシートなどの資機材・消耗品の備蓄や電動工具等を使用するための非常用電源を整備する。
- 3 コロナ禍で県外への災害ボランティア派遣が困難な場合には、レンタカーで被災地へ資器材等を運搬するとともに、支援物資については、別途宅急便で発送する。
レンタカーや宅配便等を用いて、小田原市の土砂災害復旧作業、沖縄県軽石被害支援、岐阜県白川郷火災現場支援、福島県相馬市豪雨災害支援等への資機材の搬入や支援活動に伺いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

2021年8月オープン 活動拠点『かけはし・やなぎばし』が開設することができました。

この活動拠点は、地域防災は元より地域の方々の一時避難にも活用できます。・災害備蓄倉庫(やまと倉庫)(水、食料、食材、ブルーシートや土嚢袋など平時から備蓄することができました)を設け、近隣6自治会との協力体制を築いています。・同箇所、災害支援資機材備蓄品(スコップ、パール、機械工具、一輪車、リヤカー、発電機など機械工具類含む)など、災害時に必要な最低限の資機材を用意いたしました。・災害対応緊急ダンボールトイレ(トイレなど使えなくなった時のため)の備蓄をすることができました。

各備蓄品は今後時間がかかるかもしれませんが(倉庫の広さなどにもよりますが)、徐々に必要な備蓄数を毎年少しづつでも増やしていきます。

また、災害支援では多くの被災地への支援活動ができたと考えています。

当団体の拠点は、神奈川県大和市柳橋と相模原市緑区名倉の2か所となることができました。

今事業では、県民(災害支援等活動のできる方々が集まれる場所としても有効利用していきます。)の皆さんが少しでも安心できる備蓄品をそろえ、また人材育成についても、資機材の研修などきっかけが多くできました、今年度も研修、安全衛生含めしっかりと活動を行っていきます。

県社協や市町村社協なども当団体の資機材等の安全研修に注目してくれています。

別事業にはなりますが、今年度神奈川県内の災害支援応援者名簿(活動してくれる方々、グループや団体など)の名簿作成にも着手しています。

助成等ありがとうございました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

まだまだ研修等は繰り返し繰り返し行わなければなりません。

コロナ過での活動をどのように行うか、技術力をどのように補っていくか、安全衛生管理をしっかり徹底させていくかなどの課題も多くあります。

また技術取得のための多くの勉強、研修、実技などをより多く機会を設けることができるかなど、コロナ過での実践が可能ななど問題点も多く残っています。

県内の関係諸団体と共に多くの学びの場をより多く持てるようにしていきます。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

活動写真



2021年10月 小田原市
土砂災害復旧作業



2021年10月 大和市
マンホールトイレ研修



2022年3月 岐阜県白川郷
火災現場支援



2022年5月 大和市
エンジン機械研修



2021年12月 沖縄県恩納村
軽石災害支援

お 礼

拝啓 貴殿には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より本会の事業推進につきましては心からの御支援御協力を賜り深く感謝申し上げます。

この度は、社会福祉事業のために多大の御寄贈を賜りまして厚くお礼申し上げます。お寄せ下さいました資材は、貴殿のご意志に添いますよう、恩納村の社会福祉のために有効に活用させていただきます。

とりあえず書面をもってお礼のことばにかえさせていただきます。ご芳情誠にありがとうございます。敬具

令和三年十二月十日

社会福祉法人 恩納村社会福祉協議会

会 長 平良 幸夫

NPO法人 ユナイテッドかながわ様